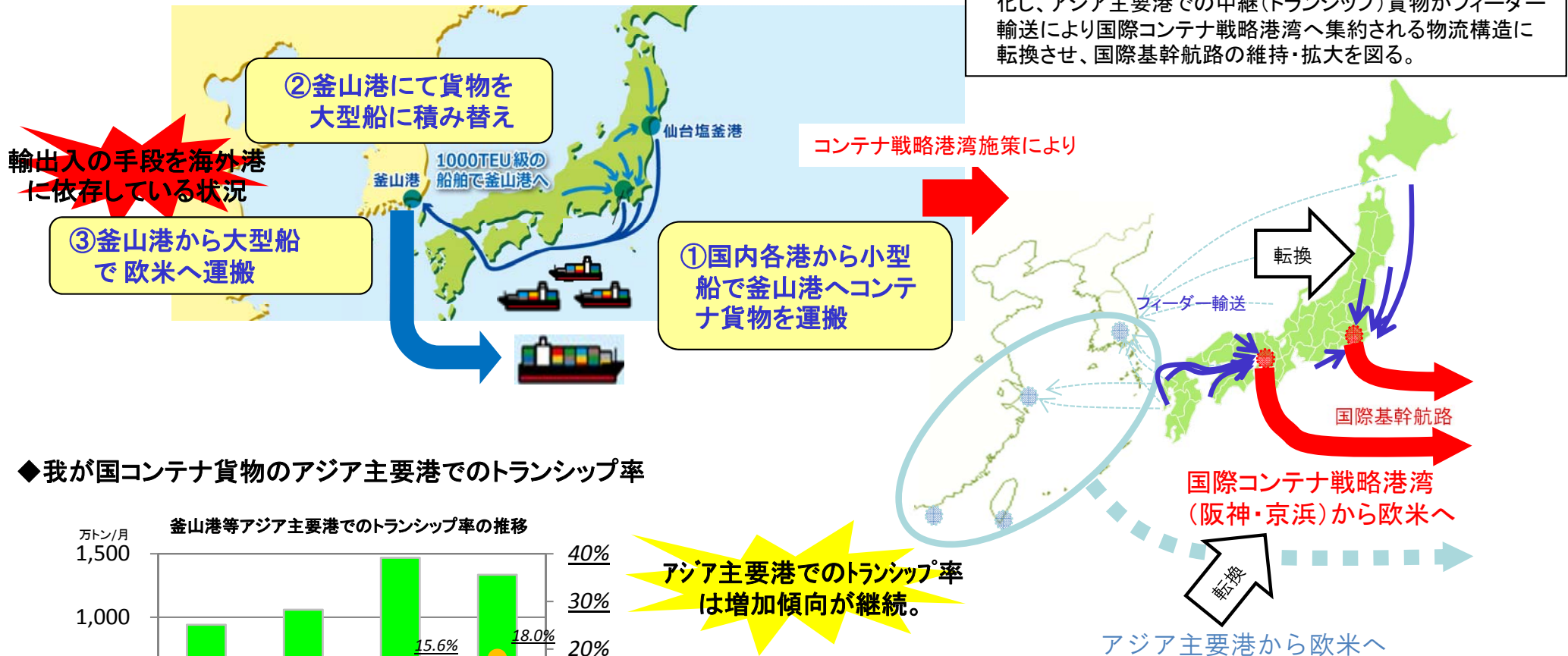


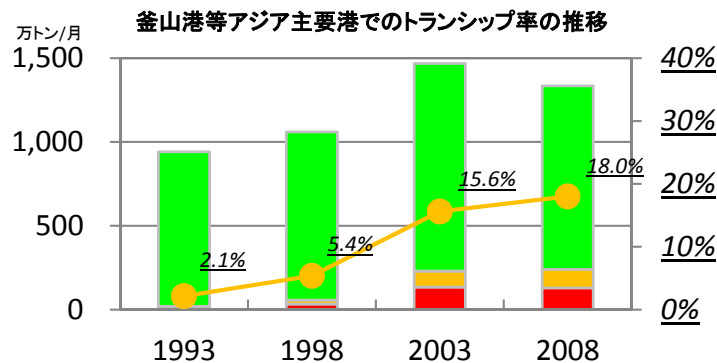
国際コンテナ物流における現状（海外トランシップ）

○釜山港等アジア主要港でのトランシップ率は、近年その伸びが鈍化しているものの増加傾向は継続。
 （我が国コンテナ貨物の釜山港等アジア主要港におけるトランシップ率 1993年時点：2.1%、2008年：18.0%）
 →我が国は貿易国であり、トランシップ率が高まる場合、我が国の物流が積み替え国の情勢に大きく左右されることになるため、我が国から諸外国へ直送できる仕組みの構築は急務。

◆我が国貨物の海外トランシップ状況（釜山港トランシップの事例）



◆我が国コンテナ貨物のアジア主要港でのトランシップ率



出典：全国輸出入コンテナ貨物流動調査より国土交通省港湾局作成

アジア主要港でのトランシップ率は増加傾向が継続。

※1 日本発着のコンテナ貨物のうちトランシップ対象港湾※2で積み替えられて諸外国へまたは諸外国から輸送される貨物の率
 ※2 トランシップ対象港湾：釜山港、光陽港、上海港、寧波港、基隆港、台中港、高雄港、廈門港、香港港、深圳諸港、シンガポール港、タンジュンペラパス港